

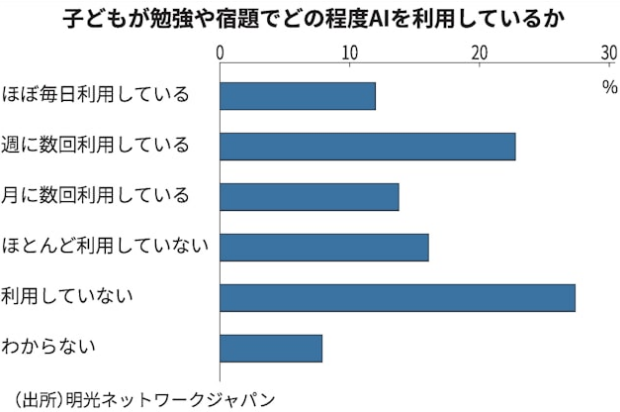
小中高生の半数がAI利用、勉強や宿題から悩み相談まで 明光義塾調べ

2026/07/06 18:25 日本経済新聞電子版 419文字

個別指導塾「明光義塾」を展開する明光ネットワークジャパンは6日、小学5年生から高校3年生の約半数が勉強や宿題に生成AI（人工知能）を利用しているとの調査結果を発表した。

小学5年生から高校3年生の子どもを持つ全国の保護者1000人を対象に6月にアンケート調査した。

自身の子どもが勉強や宿題でAIをどの程度利用しているか聞いたところ、「ほぼ毎日利用している」「週に数回利用している」「月に数回利用している」との回答が合計で48.6%と半数近くに上った。



子どもがAIに悩み相談をしたことがあると回答した265人の保護者のうち34.7%が小学生の頃からAIを相談相手として利用し始めたと答えた。勉強から日常生活の悩みまで、子どもにとってもAIが身近な存在となっている。

AIや無料の学習コンテンツが普及する中でも、子どもの学習に人による指導が必要だと思うか聞いたところ、「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」を合わせた82.2%が必要だと答えた。

【関連記事】

- ・ ノルウェー、小学校で生成AI利用を禁止 「デジタル学習」制限広がる
- ・ GoogleがAI新機能「Spark」、検索や買い物を代行 30億人の生活自動化
- ・ 「中学レベルの数学解けない」米名門大学で増加 学力試験へ回帰探る

許諾番号NK003757 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.